

医療・看護・介護など多職種の横の連携が大切です。

インタビュー

「かけはし」では、地域の先生方にインタビューをさせていただき 地域医療に関わるお話しやお知らせをお届けしたいと思います。 今回は那須郡市医師会会長の江部先生にお願いしました。



えべ ひろし
江部 寛 院長

- ・那須郡市医師会会長
- ・栃木県医師会代議員

当院との医療連携について期待されることはどうなう事ですか?

国際医療福祉大学病院は栃木県北地域の2次・3次医療機能を担っている病院です。現在は、診療内容が充実している診療科に優先的に紹介するようにしています。そういった期待に応えられる診療科には、那須郡市・塩谷郡市・南那須郡市の医師会の先生方からもご紹介しているのが現状だと思います。ご紹介させて頂いた場合には、治療計画や退院要約をきちんと送っていただけるとありがたいと思います。診療内容や結果について充分な報告を送ってくれる診療科はまだ一部で、残念に思っています。病診連携室がチェックして未報告の先生がいれば対応していただきたい。病診連携室の電話受付も17時30分まで延長を希望します。これから医学部附属病院としての機能が求められてきます。地元医師会としても、貴院を支えていきたいと考えています。

ご自分のクリニックで力を入れていることを教えてください。

当院を受診なさる患者さんは、平均年齢が75歳以上の、高血圧、糖尿病、脳卒中後遺症、慢性腎臓病、心房細動、腰痛症等の方が多いです。減塩や生活習慣の指導だけでなく、フレイルに対する対策としてリハビリをお勧めして、健康寿命を延ばす指導も行っています。県北地区は特に高齢の方が多く、脳卒中の後遺症の方も多くいます。確実にフレイルが悪化した人が多くいます。また、人間はそれまで活発に活動していた方でも病気になると弱気になってしまいます。そういった方にはメンタル的な側面からもサポートしています。

これからのことになりますが栃木県からの依頼で、地域包括ケアシステムの実現に向けて取り組みの準備をしているところです。那須郡市医師会の3地区支部がそれぞれ中心となり、2年間の期限で活動することになります。このシステムで重要なのは、医療・看護・介護など多職種の横の連携です。サルコベニアになった方や、退院してきた方々を地域で支える仕組みを作ることが重要であり、訪問看護や社協の利用、又、ティサービスやサービスステーションを利用した時は患者さんの情報を共有することが必要です。患者さんには、さまざまな看護や介護の要求があります。医師はサービス利用をお勧めし、疾患の治療とともに居宅ケア全体のマネジメントを担当していきたいと思っています。また、在宅に戻ってくると医療依存はほんの一部分です。90%以上は生活支援が主となります。生活していく上で必要な援助の多くは、ケアマネージャーが中心になって、必要とされる職種の方々に声をかけてやつていただくことになるかと思います。那須郡市医師会の地域から独居老人の孤独死を無くすことも重要なことです。

ご自分のストレス解消法を教えてください。

クラシック音楽が好きなので、クラシック音楽鑑賞がストレス解消法の一つです。膨大なLPレコードコレクションがあり、レコード鑑賞会を定期的に少人数で行っています。LPレコードがどの位あるのか、自分でも分かりませんが、多分5万枚はあると思います。すべてオールジャンルのクラシックレコードです。好きな作曲家は特別無く、バロック音楽から、ベートーヴェンを経て、ロマン派、更にワーグナーやR.シュトラウスの楽劇、ヴェルディ、プッチーニの歌劇、ショスタコーヴィッヂの音楽、フランス近代音楽まで何でも聴きます。貪欲に色々なものを聴きますね。他にスコットランドのウイスキーを少々たしなむ位です。

最後に地域の方々、患者さんへ一言お願いします。

自分では当たり前と思っていても、医療者から見ると悪い生活習慣から病気は起こりますから、生活習慣を常にチェックして欲しいと思います。かかりつけ医や保健師さんから教えてもらったり、いろいろ講演会などに参加してほしい。まずは予防に努めることが大事です。もし病気になってしまった場合には、お薬や手術による治療だけでなく、リハビリが大切になってくると思います。ヒトは年齢と共に必ず体は老化してきます。気持ちや思考力、判断力は正常で若い頃と同じだと思っていても、長い人生の途中で思わず、あらゆる病気の伏兵が待っているものです。先ず、信頼できるかかりつけ医を持つことと、腹八分目医者いらすの発想と、短時間でもよいから毎日運動することを通して自分が健康的な生活をしているかを振り返ることが大切です。

[基本情報]



院長 江部 寛

住所 大田原市黒羽向町60 診療科目 内科、消化器内科、神経内科、小児科

電話 0287-54-0013 休診日 日・祝日・木(午後)曜日

2016/1/21

国際医療福祉大学病院

発刊：地域医療連携室



連携は明日へのかけはし

高齢化社会の到来とともに、充実した地域包括ケアシステムの確立が求められています。急性期から生活期まで、地域の皆様が活き活きと暮らせる社会を構築する上で、リハビリテーションが果たす役割は、全ての領域をカバーするという点で極めて大きいと思っています。サルコベニア（筋肉減少症）の改善、転倒予防、誤嚥性肺炎予防など、予防・健康増進活動においても新しいリハビリテーションの理論を応用した取り組みが全国的に広がりつつあります。このような取り組みが、地域の保健・医療・介護・福祉施設と連携し、患者様一人ひとりに即した対応が出来るようにリハビリテーション科も努力してまいります。



リハビリテーション科部長
おおた きくお
太田 喜久夫 医師

国際医療福祉大学病院のリハビリテーション科のモットーは、ハートフルチャレンジです。この精神で、地域の皆様と連携し、患者様の夢が実現できるかはしになればと考えています。

リハビリテーション科のモットー：最新・最適な専門リハビリテーションをご提供します。嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査に基づいた摂食嚥下リハビリテーション、RAPS（図1）等の最新下肢装具を利用した歩行訓練、痙直（筋肉が緊張し、固くなった状態）に対するボトックス治療、高次脳機能障害に対する包括的認知リハビリテーション、小児発達障害に対するリハビリテーションなどを展開しています。また、直流電気刺激装置（t-DCS：図2）を使用した脳卒中後の麻痺の回復を促進するニューロリハビリテーションも開始しております。

当院ではスタッフが一丸となり、今後も患者様やご家族に寄り添いながら、チーム医療で取り組んでまいります。本年もよろしくお願い致します。

太田喜久夫医師：プロフィール

- ・三重大学卒、医学博士
- ・藤田保健衛生大学客員教授
- ・前藤田保健衛生大学医療学部リハビリテーション学科教授
- ・日本リハビリテーション医学会認定指導責任者・専門医
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士



ハートフルチャレンジ：患者様の「生活上の困難」を取り除き、最高のQOL（生活の質）実現に向けて挑戦します。心をこめて「科学をもとに、お一人おひとりにあわせて最適な生活を追求します」、それがハートフルチャレンジです。

地域医療連携室 月曜日～土曜日 9:00～17:30
TEL 0287-38-2786 (直通) FAX 0287-38-2787
医療相談室 月曜日～土曜日 9:00～17:30
TEL 0287-38-2798 (直通) FAX 0287-38-2787
休診日・夜間等の救急紹介の場合は、0287-37-2221 (代表) から担当医師に取り次ぎます。

那須塩原市の取り組み



わが国は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進んでいます。厚生労働省では、高齢者がいきいきと健やかに暮らしていくために地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

「かけはし」では、那須塩原市高齢福祉課のご協力を頂いて、本システム構築へ向けてのとりくみについてご紹介して頂くことにしました。

一 地域包括ケアシステムの構築 一

一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加している中、医療や介護が必要になっても、できる限り住み慣れた地域で安心して自分らしい生活が続けられる社会を目指すため、医療、介護、予防、住まい、生活支援、の必要なサービスを、行政、医療、介護の関係機関、事業所、自治会、ボランティア、NPO等が包括的かつ継続的に提供できる地域での体制づくり、つまり「地域包括ケアシステム」の構築が重要となっています。

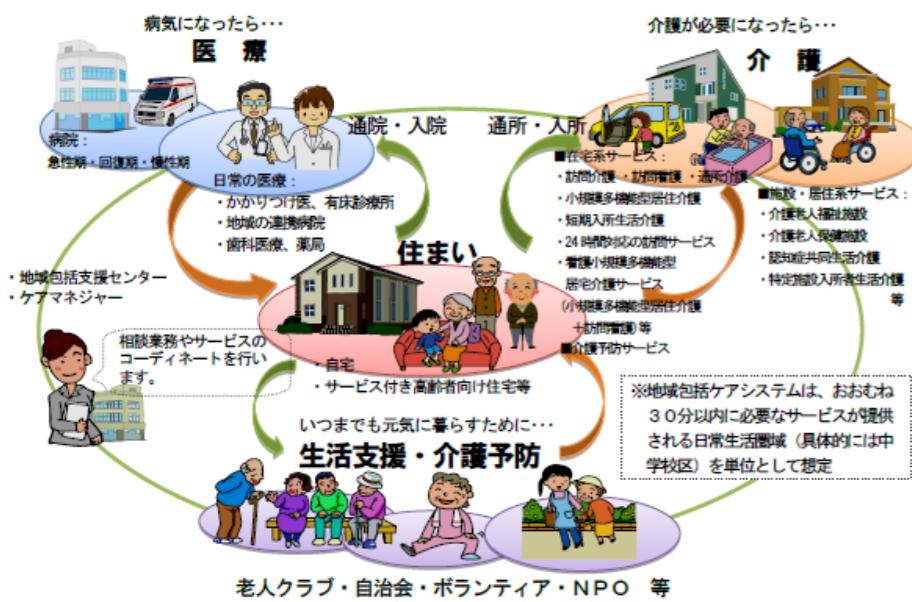
加齢による心身機能の低下などに伴い、「医療・看護」「介護・リハビリテーション」などの処置や支援が必要になります。その医療や介護サービスを、「住まい」を中心として適切に受けるためには、各地域において、医療や介護等の関係機関がしっかりととした「役割」と「つながり」を持ちながら、協働によるチームケアを提供できるようにしていくことが必要です。

那須塩原市では、平成27年4月から保健福祉部高齢福祉課内に「地域支援係」を新設し、地域包括ケアの推進に取り組んでいるところです。

個別ケースから明らかになる地域課題を資源開発や政策形成に導く「地域ケア会議」や「協議体」の開催等に向け準備を進めているところですが、医師やリハビリテーション専門職の皆様のご支援が必要です。

平成30年4月からの在宅医療・介護連携推進事業の開始に向けては、那須郡市医師会のお力添えにより、その先行事業としての取り組みが進められていますが、広域的な連携事業として大田原市、那須町とともに事業の構築に密に携わり、この事業が市町事業として円滑に移行できるよう期待をしているところです。

医療と介護それぞれの保険制度の垣根を越えて、医師会や関係機関等と連携し、お互いの情報を共有しながら、日常生活の場で必要なサービスを切れ目なく提供できるよう、地域包括ケアシステムの仕組みづくりを進めていきたいと思います。



一 地域包括支援センター 一

那須塩原市では、市内8箇所に「地域包括支援センター」を配置し、「地域包括ケア」を推進していくための中核機関としての役割を果たしています。次回からは各地域の地域包括支援センターを紹介していきたいと思います。



耳鼻咽喉科部長
ながわ まさふみ
中川 雅文 医師



炭酸ガスレーザー装置

耳鼻咽喉科よりお知らせ

当院耳鼻咽喉科に炭酸ガスレーザー装置が導入されました。

【 Lumenis AcuPulse 30W/40W CO2レーザ URL 】

http://www.lumenis.co.jp/surgical/products/30c_40c/acupulse_30w40w_co2.html

これに伴い

- 1) 肥厚性鼻炎（アレルギー性鼻炎）に伴う鼻閉改善のための下鼻甲介焼灼術
- 2) 耳硬化症に対するレーザーを用いたあぶみ骨手術
- 3) 早期の喉頭癌に対する顕微鏡下喉頭腫瘍切除術
- 4) レーザー鼓膜切開術（チューピングに準じた長期間の穿孔維持ができる。難治性の滲出性中耳炎が適応。チューブ抜去術が不要となります。）

また、従前から導入されているコブレーターにて行うことの出来る手術が、扁桃摘出・アデノイド切除以外に、粘膜下下甲介切除術（レーザーでも改善しがたい難治性の鼻閉、水溶性鼻漏の改善に有効）、鼾に対する軟口蓋形成術にも対応可能となりました。

【コブレーター2サーシェリーシステム URL 】

http://www.adachi-inc.co.jp/jp/products/surgery_med/coblator.html

当院では、これらを日帰りあるいは短期入院（2泊3日あるいは3泊4日）にて行っております。

- 日帰り：レーザー鼓膜切開術、レーザー下甲介切除術
- 2泊3日：口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除、軟口蓋形成術、顕微鏡下喉頭手術
- 3泊4日：鼓室形成術、鼓膜形成術、内視鏡下副鼻腔手術（片側の場合）

中川雅文医師：プロフィール

- ・順天堂大学卒、医学博士
- ・日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医
- ・補聴器適合判定医（日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医）

編集後記

新年あけましておめでとうございます。連携誌「かけはし」も第三号となりました。内容についてご希望やご指摘がありましたら、お気兼ねなくご連絡頂ければと思います。地域連携室ホームページ（下記のURLをご参照ください）からpdfのダウンロードも可能になっています。地域の先生方のインタビューコーナーでは次号に掲載する先生をご紹介して頂いていますが、自薦もお待ちしております。江部先生からは、地域連携室の電話受付時間について改善のご依頼がございました。昨年の12月より、電話受付時間を17時30分まで延長いたしましたのでご利用頂ければ幸いです。さて、わが国は「超高齢社会」を迎え、平均寿命だけでなく健康寿命の延伸が必要とされています。人生を長い「旅」とするなら、誰もがいつかは目的地に着いてしまいます。患者さんも医師も、どうやって健やかに豊かに旅を続けて行くのか、真剣に考え、議論できる時代にようやくなつたように思います。地域連携室では、地域包括ケアシステムのコンセプトを基にして、医療・福祉・介護などの多職種ネットワークと新しい連携の仕組み：国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワークを企画しています。ICTとインターネットを活用すれば即時性や網羅性の高い情報を容易に入手できるようになり、国際性の高い連携も可能になりました。そのような時代だからこそ医療や福祉の世界では、顔の見える、リアリティのある連携が一層重要であると考えています。本年も地域連携室をどうぞよろしくお願ひいたします。

地域医療連携室部長 柴 信行

地域医療連携室ホームページ URL : <http://hospital.iuhw.ac.jp/cooperation/index.html>